


わたしたちが運ぶのは未来です

 運輸省



みなと しみず

発行所

第五港湾建設局

清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号

TEL 清水<0543>52-4146(代)

清水港に

サンタマリア号入港

コロンブスのアメリカ大陸到達五百年を記念して復元された「サンタマリア号」が九月十五日、清水港に入港した。当日は、マリニビル前の新

船溜において当所所長を初め関係者多数の出席のもと、斎藤知事、宮城島市長他のあいさつのあと清水市消防音楽隊の演奏により盛大に歓迎セラ



サンタマリア号 (撮影 石川労務厚生係長)

モニーが行われた。同号は二十三日まで停泊し、十八、十九、二十日に船内が一般公開された。期間中は晴天に恵まれ、三日間の人出は十六万人に達した。

また、マリニビルでは、スペインを出航し神戸港に到着するまでの航海記録が上映され航海気分体験、帆船に関する資料の展示、並びにインポートフェアとして、同号ゆかりの地である「スペイン」「ヨーロッパ」その他の国のゾーンに分かれ、それぞれのお菓子やワイン・絵皿や絵画等の商品が販売された。

「サンタマリア号」財団法人「サンタマリア号協会」がスペインの造船会社に復元建造を依頼し、全長三二m、百二十トン、三本マストで復元された。

昨年七月にバルセロナを出航、コロンブスがたどった航路にしたがって大西洋を横断した後、パナマ運河から太平洋を渡って今年四月神戸港に到着した。

国内においては神戸港を振り出しに、瀬戸内海から日本海、津軽海峡を通して太平洋岸を南下するルートのかなで、全国十九の港においてその勇姿を披露。清水港は十七番目の寄港地である。

九月一日

防災訓練

東海地震を想定した防災訓練が「防災の日」の一日、日の出町事務所、三保の工事課、御前崎工場、下田工場の全職員が参加して実施した。

今年、例年より三十分早く、六時三十分の「判定会招集」の一報から開始され、所長から連絡を受けた本部員等は八時十分までに登庁し、所長室での待機となった。

八時三十分「警戒宣言」が発令され、所長室に防災対策本部を設置し、本部員及び各担当者は本部長の指令により情報の伝達並びに庁舎内外



防災対策本部 (所長室)

の安全措置を図った。

本年は、清水市の対策本部(市庁舎三階)へ当所職員を一名派遣し防災無線電話による情報伝達の訓練を行った。九時三十分!!地震発生!!の想定のもと各職員は身の安全

を図るため、約一分間余り机の下に身を寄せた。その後防災対策本部を災害対策本部に切り替えて、各所の被災状況調査活動を行い、結果を本局及び関係機関に報告して訓練を終了した。

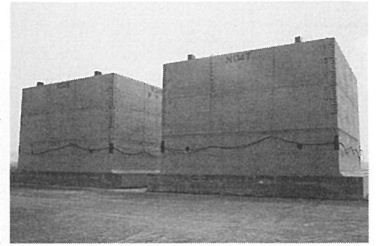
訓練終了後、会議室にて防災に関するビデオを一時間余り上映し防災意識の啓蒙を図った。上映したものは、静岡県製作の「私たちの地震対策!! 警戒宣言発令!!」と「大地震ノそのとき防災担当者は何をノ」の二本であった。

マンネリが指摘される中で基本事項を確認するという点で、今回の訓練とビデオによる啓蒙は、有意義であったと思われる。

(石川労務厚生係長)

ケーソンの回航

清水港三保ケーソン製作場では、御前崎港の防波堤の本体となるケーソン（鉄筋コンクリート造りの函塊）を製作し、約55km離れた御前崎港まで回航（海上運搬）しています。写真のケーソンは、長さ15m・幅15m・高さ11.5mで、重さは約1800トンあります。ケーソンは一般の船舶に比べて海上での安定性が悪いため、タッグボートであまり速く引く張ると転覆する恐れが



完成したケーソン

あり、回航は時速4km程度の人間の歩く速さで行われ、御前崎港到着まで約14時間を要します。

安全に回航するためには、最低2日間海の静穏な日が必要となり、ラジオ・テレビ・気象台の予報、御前崎工場の波高記録等による気象・海象条件の把握に非常な神経を使います。

一度台風が発生すると、うねり、波などの影響により1週間程度は回航不可能となる場合が通例です。

今回は4函の回航（7月27、28日、8月6、10日）を行いました。3函目・4函目は台風9号、10号の影響で当初計画より7日間の遅れが生じました。

次々と台風が発生し、工期完了が心配されましたが、工期を延伸することなく無事完了し、担当者一同ほっとしているところですよ。

静岡県のみなとシリーズ(2)

相良町 相良港

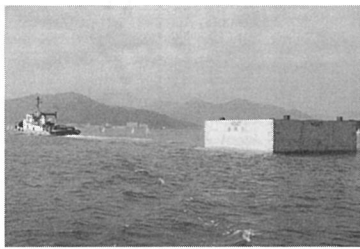
歴史のはじまりは縄文早期。地名の由来は砂礫の河原、あるいは古代語、サアラ（葦の生えている村）などの説があります。

駿河湾の西岸、牧ノ原台地の東、海岸沿い榛原4町（御前崎町、相良町、榛原町、吉田町）の御前崎町より位置し、農業（お茶）をはじめ、漁業、商工業、観光等で潤う面積五八平方キロメートル、人口二万七千人の町です。

沿革

昭和二七年地方港湾の指定
 なお、当事務所に於ける回航基準は、次の通りです。

- 一、波高 1.2m以下
 - 一、風速 10m/s以下
 - 一、視界 1000m以上
- (第一工事課 山本係長)



回航中のケーソン

を受け、相良地区と平田地区からなる静岡県の管理港湾です。

本港は萩間川の河口にあり、古くは小さな漁村に過ぎなかったが、江戸享保年間、田沼意次が相良に封ぜられ、居城を築く際に支流を埋め、本川に湊橋を架け、その下流を相良港と称するようになったと言われています。

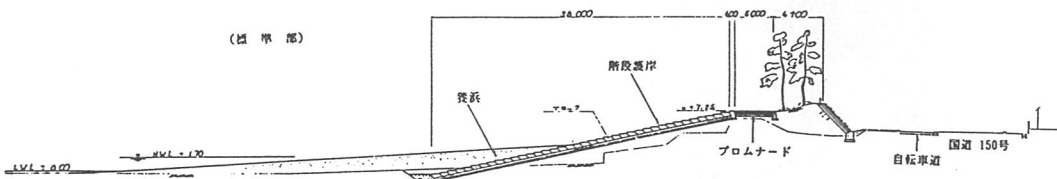
大阪・江戸間の船舶の寄港や避難などによって栄えてきましたが、川崎港（榛原港）と同様に安政大地震による、地盤隆起で使用不能となっております。明治以降は浚渫によって漁港として利用されています。

昭和に至り新たな港湾整備として相良地区は、地元沿岸漁業の振興促進のため漁船のくい留施設や泊地浚渫を、また、平田地区は相良地区の補完として防波堤の改良やくい留施設の整備、用地造成等が進められています。

相良港ふるさと海岸

ふるさと海岸モデル事業の一環として、機能優先で整備されていた相良港海岸の片浜地区海岸堤防を、海岸保全機能を保ちながら、潤いのある海岸保全施設として再整備を図るため階段護岸及び水叩工、潜堤、砂浜等の事業が平成四年度実施が予定されています。

施設断面図





大鐘家の母屋



大鐘家の門

史跡

この地方最古の民家として国の重要文化財に指定されている大鐘家住宅は慶長二年(二五九七)頃の建築物です。

外郭や屋根は造り替えられています。母屋の部分はすべて手斧造りです。土間の中央にあるカマド、座敷のヘツツイは珍しく、当時の生活様式がうかがえます。当家は江戸時代から代々、

庄屋を勤め、また、石高三千石以上の格式のある家柄であったようです。(ウォーターフロント窓口)

港湾関係功労者表彰

平成4年度運輸省第五港湾建設局港湾関係功労者の表彰式が、7月29日日本局にて行われました。同表彰は港湾等の振興発展及び整備事業に功績のあった個人・団体と海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動を表彰するもので、当所管内の受賞者は以下のとおりです。(敬称略)

◎振興発展(感謝状)

後藤磯吉：静岡県地方港湾

審議会会長

◎永年勤続功労

橋本善史：(株)橋本組代表取締役

役社長

梶 豊：青木建設(株)技術部長

◎優良工事

東亜建設工業(株)名古屋支店

鈴木建設(株)

静和工業(株)

(株)古川組静岡支店

五洋建設(株)名古屋支店

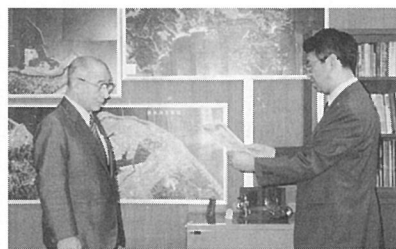
東用建設(株)名古屋支店

◎海をきれいに

三保地区老人クラブ連合会

なお、後藤氏への感謝状は、当事務所にて7月31日尾崎所

長から伝達されました。



感謝状を受けられる 後藤氏

寄稿

—その四—
人々の恩と助けを受けて
元職員 白石 良

石川頼治船長

8号起重機船に指導員のような立場で乗船していたものと思う。

昭和19年から20年にかけて清水船員養成所の教官であり私も指導を受けた一人である。4年間経過した再会であったが、良く覚えてくれていた。

レクリエーションで宿に着くと、白石、小使いはあるかと腹巻から出してくれる。遠慮なく借用したものである。船長の退職後も自宅に立寄り無駄話で笑い合った。病気で寝たきりになり、髭そりが一つの見舞いとなっていった。亡くなられる2日前、髭をそっているのを戦死した一人息子の名前を呼んでいた。さよなら

が近いなと思いつつ、そり上げた。数日後、奥さん一人となったので余分なことながら親戚の方々に今後をお願いし最後の焼香してお別れした。

鈴木熊吉工長

ほんの短い期間ではあったが、陸上機械係として陸上勤務した頃、親父が亡くなった。金策に苦勞して借入の融資を見た工長は、共済を借用し融通してくれた。返済も給料日毎と云うことで本当に助けて戴いたものである。

川口吉三甲板士

仲人になって貰い私的にも面倒をみてもらった人である。

一人息子に先立たれた老夫婦で退職後は年金受給資格もなく、蓄えと奥さんの国民年金で生活していた。川口さんの退職後の夏、冬2回小使いの足になればと仏壇にそっとそなえたものだ。

現在は奥さんと孫が同居して居り一安心している。

直営時代の仲間達

ほとんどの人が年上で種々異なつた前職の持ち主だった。陸上、海上を問わず各分野でお世話になった仲間達。特に白龍丸機関長、9号プリストマン操機長、8号、5号起重機船操業長、駿河操業長時代は、若僧の指示で本当に良く働き助けてくれた。感謝の念で一杯である。

加藤先生(事務所とは関係ない)

痛まない痛まない注射する内科の先生で、私は勿論のこと、父母の亡くなるまで、子供の幼い頃お世話になった先生である。

昼夜の別なく風雨問わず電話一本で往診して戴いた。私にとって大恩人の一人である。

以上ほんの一例に過ぎないが、自分の廻りの人々の温情と助けを受けていることが、今後も生ある限り人々のお世話になることだろう。(元)

実習に来て(平成四年八月)

柴田裕史



実習生として第五港湾建設局清水港工事事務所に来て最初に思ったことが、明るくていい人が多い所だなあとということでした。国家公務員は、陰気くさい人の集団のように思っていましたから、これは意外でした。本格的な実習生

としての生活が始まってます思ったことが、みなさん遊びと仕事をきちんと両立させているというのが、さすがということでした。僕自身勉強と遊びを両立させることが出来ていないために、社会人になるにはまだまだ自分に不十分な点が多いということを感じさせられました。

実習生としての生活は、みなさん気を使ってくさるために、思った程苦勞せずに済みました。実習課題としてやった清水港防波堤の設計は、防波堤の構造や機能を知ることにより、防波堤が港を守るのにどれだけの効力を持っているのかが分かりました。

それに、港の安全を守る仕事を担っている人達の苦勞が分かりました。

いまのところ国家公務員になるとは決めていないけれど、もしなる機会に巡り会った時には、清水港工事事務所みたいな所で働きたいと思いました。

最後に、この一カ月間どうもありがとうございました。

柴田 裕 史

昭和 49 年 3 月生まれ
岐阜県羽島郡柳津町
岐阜工業高等専門学校
土木工学科 四年生
趣味 読書、ボウリング

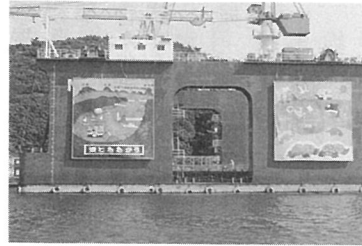
工場だより

下田工場

下田港防波堤工事
のイメージアップ

港湾建設工事のイメージアップについて前号で掲載されましたが、下田港防波堤工事は初の試みでもあるその事例を紹介したいと思います。

写真 1 は、下田作業基地（ブロック等製作ヤード）の岸壁に接岸しているフローティングドックの側面（海側）に



(写真 1) フロートドック

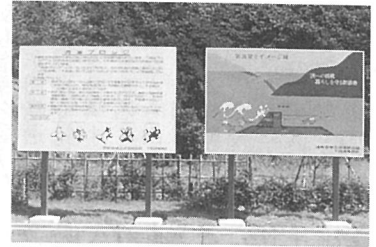
に絵柄シート 2 枚を張り付けたものです。

このシートは、縦横 10 m のナイロン製で、海に親しみ易いイメージと防波堤完成後のイメージをそれぞれ絵柄にほどこしたものです。対岸を歩くと観光客や釣り客、港内を遊覧する乗船客等の目を引きつけることが出来、PR 効果が期待できます。

また、作業基地内では、来訪者用に工事説明掲示板が 2 基設置されました。

一つは、防波堤機能をわかりやすくした絵図で、もう一つは、清波ブロックの説明を

記したものです。これは、地



(写真 2) 工事説明掲示板

元の人々の理解やコミュニケーションを図ることを目的としたものです。(写真 2)

作業現場は、3K のイメージがもつとも強いと思われま。このことから、作業環境の向上を目指すためシャワールームを仮設した例もあり、作業員の評判も上々とのこと。

今後も引き続き、イメージアップについて積極的なアプローチが必要と考えられますが、関係職員並びに工事関係者の努力に期待したいと思います。(下田工場 安西良治)

御前崎工場 航海実習船寄港

平成四年九月四日(金)、東海大学海洋学部学生約一三〇名が乗った航海実習船 2 隻が航海実習の途中御前崎港に寄港しました。

第 45 回清水みなと祭り

8 月 1・2 日にかけて、夏の祭典「清水みなと祭り」が開催された。

一日の夜は、「市民総踊り」が行われ、当所職員六名を含む一万五千人の市民が参加し、会場であるさつき通り(3.6 km)を埋めつくした。二日は、メインイベント「ヒューマンセッション 92 万人の港響曲」が上演され

た。万人の港響曲は、日の出ふ頭の特設ステージで行われ、宇崎竜童さんが総合プロデュースを担当し、百五十人の市民オーケストラで午後三時から演奏を開始した。

内容は第一楽章「陽光」から第八楽章「ヒューマンセッション 92」で構成され、市民から募った吹奏楽、合唱、太鼓、みこし等次々と参加し文字通り万人の歌声が港の空に響き渡った。

清水港の動き



富居工場長の講義を受ける学生

富居御前崎工場長が約三十分、御前崎港の概要について講義をしました。

学生たちは、初めて聞く御前崎港について興味深げに熱心に聴講していました。

そのあと、御前崎港を陸上より見学し、新島へ向けて出港していきました。

(リポーター 大野)

- 3日 (8月) 東海地区港湾長期ビジョン検討会「第一回」(名古屋)
- 7日 下田港施工技術調査検討会(静岡)
- 17日 清水市防災会議(清水)
- 25日 大蔵予算要求説明会(清水)
- 1日 (9月) 事務所地震防災訓練
- 8日 東海地区港湾長期ビジョン検討会「第二回」(名古屋)
- 15日 業務改善委員会(名古屋)
- 15日 サンタマリア号入港(清水)
- 12日 (10月) テクノスパーライナーシンポジウム(清水)
- 13日 熱海コースタクルリゾー トシンポジウム 92(熱海)
- 14日 下田港景観調査委託委員会(下田)
- 20日 第9回清水港湾機関長会議(清水)
- 20日 第43回直轄港湾技術研究会(福岡)
- 28日 東海地区港湾整備促進大会(名古屋)